

## 「子どもの頃わくわくして見ていた花火 今は海の上から安全を見守っている」



横浜市漁業協同組合代表理事

黒川 和彦（くろかわ かずひこ）さん

海の上から見る花火は格別。遮るものがないので、圧巻。振動も直に伝わってくるんですよ。金沢区で生まれ育ったので、子どもの頃とてもわくわくして見ていた。落ち着いて見られるようになったのは大人になってからですね。最近は特に人の流れを見ている。金沢区にどれくらいの人に来てくれているのか、気になる。たくさんの人に来て欲しいですね。

海上で花火を打ち上げるには、安全確保のために「航泊禁止区域」が設定されます。その区域内に船が侵入しないように我々漁業組合は、漁船を出して警戒業務を行っていますが、ルールを守らない船が侵入してくることもあり、緊張感を持ちながら安全を守っています。

金沢まつり花火大会は、8月の第4土曜日だから、夏の終わりの象徴。この花火見て、ああ今年も夏が終わった～って。今年は夏が終わらないね（笑）

花火を見に、毎年金沢区にたくさん人が来てくれるのがとても嬉しい。コロナで自粛の日々でみんな元気でないよね。金沢区を色んな形で盛り上げていきたいね！！

## 「花火大会との付き合いは半世紀以上」



横浜市金沢消防団

左：岡本 政則（おかもと まさのり）部長

中：野本 敏明（のもと としあき）団長

右：野本 則明（のもと のりあき）部長

消防団では8つの分団から毎回100名程度の団員が会場内外の約20か所で、火の粉が飛んで火事になったりすることがないように警備にあたっています。風が強いと思わぬところにまで火の粉が飛ぶので、気が抜けません。我々3人は10年以上、警備業務に携わっているので、お客さんとして見たのはいつだったかな。

金沢まつり花火大会は実行委員会が早め早めに動くので、今まで大きなトラブルはなかったです。花火の打ち上げは終わったとしても我々の仕事は終わらないので、自分たちの詰所に戻り機材置き場に車を入れた時点で「終わったなあ」と感じ、仲間との「ご苦労様でした」の解散あいさつでほっとしますね。

金沢まつり花火大会当日には多くの方が募金してくれます。それは、みんなの期待の表れだと思うよ。

私たちはみんな富岡出身だが、子どもの頃は船で花火を見に行きましたね。その頃は、海の公園ではなく野島の夕照橋付近で花火が上がっていた。それを漁師の人が出してくれた船の上で見たのが良い思い出。今、考えると贅沢だね。

金沢の花火大会とは半世紀以上の付き合い。来年は今年の方も景気よくぜひ開催して欲しいね。